

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176000040		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぽぽ 第二		
所在地	北海道三笠市高見町444番地		
自己評価作成日	令和4年12月12日	評価結果市町村受理日	令和5年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiryosyoCd=0176000040-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和4年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ミッションである「ひとり一人の笑顔を大切に、誰もが自分らしく生きられる社会を作ります」を目指し、5つのビジョンを達成出来るように取り組んでいます。
 ・介護理念ではなく、目指すべき、達成すべき目標を掲げて実践しています。また、ミッションとビジョンは全職員を対象にどういう物が良いか意見を出し合い、作成したものであります。
 ・一人ひとりの想いを大切に、その人らしい生活を支援します
 ・やりがいを持って、楽しく働ける環境を作ります
 ・常に向上心を持ち、知識と技術と心を磨き続けます
 ・全員で考え、目標を達成できるチームをつくります
 ・住み慣れた地域と、人と人のつながりを大切にします 左記がビジョンとなります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を新たにミッションビジョンとし職員の意見を反映して作り上げました。ビジョンの達成状況の共有として、月一回、ユニットで目標を上げてユニット内相談、協力して実践できています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在感染予防対策中のため、交流を実践する事が難しいです。病院での通院時に利用者様の知り合いに会う等の交流しか出来ておりません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防対策中のため運営推進会議や地域の行事に参加は行えていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議議事録を昨年の11月から変更し、地域の意見を取り入れ一新しました。また、ホームでの取り組みを報告しています。地域の方々との会議を行う事は難しく、出来ておりません。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険係と電話やメール、面談等を密接に取り合っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・身体拘束適正化委員会を設置し、担当職員が中心となり会議を行っています。それを元に全職員に内容を周知しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束適正化委員会を設置し、3か月に1回開催しています。命に関わることで一時的な拘束が必要な場合のみ家族と相談しながら実施し、その他は虐待、不適切なケア防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現場の支援専門員や知識を持っている職員はいるも機会を持つことが少なく感じます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約については施設長が説明し、声に出して契約書を読む、質疑応答を繰り返しながら対応している。現場のスタッフとしてはご家族から疑問があった場合は質問内容と説明内容の共有を上司と行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍であり、面会が出来る時と、出来ない時があるもお手紙や、電話等で要望を聞いております。関わりやすい雰囲気を作り、話し方にもかたくならないよう気を付けています。外部へは何かあった時に運営推進会議議事録に載せるようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議でも話し合いますが、会議以外でもその場その場の意見交換を行い、都度反映できていると思います。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を作り、実施して各自職員との面談を行なうようにしています。常勤換算数はクリアしているも、田舎というデメリットで人員確保が難しい時もあります。現場職員から介護以外の業務を行う為に時間外や勤務中に抜けなくてはならないため、勤務調整が難しい時があります。また、設備や建物の劣化に改善したいという声もあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の研修会の開催を実施しています。外部の研修会に参加を促したいですがコロナ感染症のこともあり、外部の研修には中々参加出来ておりません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会等を年に何回か開催して勉強会を開いて実践しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で本人やご家族が話しやすい雰囲気を作り、入所後にもしっかりと観察と対話を行って生活に馴染める様配慮をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から家族と常に何かある時は連絡を細目に取り、より良い生活が送れるように取り組んでいます。その人をスタッフ間でも理解できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人が今最も必要な支援は何かを見極めるために契約の段階で情報の収集を行い、地域のケアマネジャー、病院との連携を取っています。何か出来ることがないかスタッフ間で話し合い、自立についても対応していきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家にいるかのように安心して過ごせるよう会話を少しでも多く持っています。身体介護の多い利用者様にも介護をしているという意識ではなく、極力自分でできる事は行なってもらい協力して頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族の関係や距離感が遠くならないよう近況報告を報告書や電話で行い、会話の中でも家族の話や写真を見てもらう等家族との絆を大事にさせていただいております。家族と共に支え、支援をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策中のため、知人の来訪行えていないことも増えています。通院時に知人から声をかけてもらう程度です。色々な場所を訪れた話や昔話で忘れないようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの人柄や性格を把握したうえ、食事や軽作業を行なってもらい、自発的にも利用者様同士が交流出来るように配慮しています。皆で遊べる楽しめる空間作りにも取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも気軽に訪問や声を掛けて頂けるような関係づくりを入居中に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりその人らしい生活を支援できるよう会話の中で思いを汲み取れるようにし、スタッフ同士でも情報を共有しています。困難な方にはご家族と相談しながら本人本位について考えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族様に情報の聞き取りを行っていますが、入居後も利用者様やご家族様から再度伺った内容を職員間で情報が共有しています。情報を増やして行っています。また昔からいる職員や上司にも聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の状況を把握し、過ごしたいように本人本位にたって考えられるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの作成毎に会議を設けてご本人とご家族の意向の聞き取りを行ない、その人らしいものを作成出来るように努めています。スタッフ同士でもしっかりと相談しながら作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過の記録、日々の共有ノートやモニタリング等で情報共有をすることで介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その利用者様にとってより良い支援が出来るように現状可能な範囲で柔軟な支援を目指しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策中の為地域とのかかわりがしばらく絶たれており、現在の地域資源を使用できていません。心身の力の発揮が出来るように取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状や本人や家族の要望に合わせた病院へ受診しています。特に訪問診療医との連携を大事にしています。地域医療連携室とは細かな連携はとっていますが、市内の病院は中々の医師本位であり、こちらの思いや気持ちは大事にもらえず、厳しい状況です。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か起きた時には看護師に相談し、情報の共有を行い、常に対応出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は情報の共有を病院と図り、地域医療連携室とも密に連絡を取っています。入院後は利用者様のご家族様に対応を願っていますが退院に向けて出来る範囲で関わられるように互いに連絡を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期に入る前から、ご家族と訪問診療の医師、ホームの職員と協力体制が取れる場合はお看取りが出来る環境となっています。入居時にも看取りについて指針や説明を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当医や常勤の看護師に相談し、緊急時の対応を共有しています。また、定期的に研修や上司に相談を行っています。日々実践出来るように取り組んでおります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、災害時の対策共有は行っています。火災だけではなく、今年度は地震想定訓練を行いました。去年は炊き出しも行っています。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人柄や性格を把握したうえ、言葉かけには気を付けるよう心がけています。日頃から嫌な気持ちにさせないように気を付けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の話をよく聞き、自分で決めたことやしたいことの手助けをするという気持ちで取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者様一人ひとり違うペースでご本人本位で希望に添えるような支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重介護の方には主に介助できれいにしているも、ご自分でできるような方には、手助けをする程度で身だしなみを整えています。イベントの日にはお化粧もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々利用者様と一緒にメニューを考える時もあり、好みのものを提供出来るようにしています。調理は時々で普段から片付けは職員と一緒にこなっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状況に応じて食事形態の変更は行っています。水分量に関しても水分に変わるような好みのものを探して摂取して頂けるよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。毎月の提携している歯科の口腔ケアやチェックを受けているため、状況の把握は行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人に合わせた排泄の方法を取り、排泄パターンを記録しています。44(下記)の取り組みを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄について食事や水分の摂取状況を把握、運動も考えています。排便状況に合わせて乳製品の提供や活動など極力下剤なく排便があるよう常に意識した支援を行っています。プリストルスケールを使用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴したい方にはその日のうちに入って頂き、拒否があった時には無理をしません。週2回は入って頂きます。気持ち気分に合わせて入浴支援を行なっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の精神状況を観察し、眠気があった時には臥床して休んで頂いています。昼間、夜間睡眠の状況の観察は日々行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬方法については内容の共有や服用後のご本人の状況などを記録に残し医師に伝えられるようにしています。処方してもらう時には薬情報書も頂き、職員が把握出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ感染対策中のため、出来る事が少ない中でも外出に代わって出来る体を動すレクリエーションやリハビリなどその人に合わせて実施しています。季節の飾り付けやモノづくりを一緒に行なっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策中のため行えていないため、ストレスを感じられている方もいます。人の少ない所には出かけています。希望どおりに沿うことは現在難しい状況です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名はお金の大切さを伝え、家族になくても良い金額のお金は所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方は、今の利用者様にはいませんが、電話を希望される方にはお話できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が怪我をしないように歩く動線には物を置かないようにしています。共用の空間では温度湿度、音、匂いには気を付けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人ひとり落ち着く、気に入った場所があり、その場所で過ごして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使っていたものを使用して頂いています。思い出の写真や思い出のあるものは居室に置くようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開設当時から大きな改装は行っていませんが、手すりの取り外しなど、ご本人の状況に合わせた出来る部分の環境づくりを行っています。		